



見沼小だより

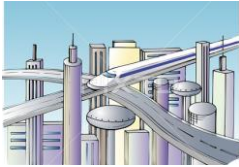
平成29年度第7号

平成29年11月1日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



子どもたちが生きる未来の社会

校長 大澤 淳

朝晩はずいぶん気温が下がり、寒さを感じる季節になってきました。また、2週続いた台風で、予定されていた行事が実施できないなど、天候の不順が各地に大きな影響を及ぼしています。

幸い、本校の行事は順調に進んでいます。10月の半ばには、6年生の修学旅行に行ってきました。きれいに修復された歴史ある東照宮の見学、戦場ヶ原や中禅寺湖の紅葉など、日光の素晴らしさを、6年生たちは十分に満喫したことと思います。紅葉の色が鮮やかになるのは、寒暖の差が激しく、より厳しい環境におかれたときだそうです。逆境の中で磨かれる、と考えると、何か励まされる気がします。

10月後半は、学年の行事がたくさんで、1年生から5年生まで校外学習がありましたので、全学年が10月に学校外で活動したことになります。5年生の校外学習は、伝統産業の益子焼と、現代の日本の基幹産業ともいえる自動車工場の見学でした。まさに今、日本を支えている自動車産業ですが、大きな変化の時期を迎えています。たくさんの報道にあるように、人工知能が幅広く導入されつつあり、日本の産業構造も大きく変化するだろうと言われています。

先日のニュースで東京モーターショーが取り上げられ、その中で「ハンドルのない未来カー」が紹介されていました。やがて来る未来には、多くの車が自動運転となり、ただ座っているだけで目的地に到着する時代になるのでしょうか。さらに、公道を走るときは自動運転でなければならないなんてことになるかもしれません。安全性は格段に向上するでしょうが、運転好きな人にはさびしい未来かもしれません。

ともかく、人工知能が社会を大きく変化させることは、各方面でずいぶん予想されています。私のような年寄りも、ただただその変化に遅れまいと頑張るだけですが、子どもたちは違います。大きく変化する社会に適応し、新しく産業を生み出し、そしてその中で仕事をしたり、新しい技術を開発したり、その技術を有効活用する工夫をしたり、とにかく新しい社会の中でしっかりと力強く生きていくスキルを身に付けなければなりません。もしかしたら紅葉のように厳しい環境が子どもたちをより輝かせてくれるかもしれませんが、果たして、今、学校や家庭で何したらよいだろう、と考えています。

小学校はすべての学習の基礎を学ぶところです。今後、子どもたちがどのようなことに興味・関心を示すか、それはさまざまです。また、変化する社会でどのような力が要求されるかもわかりません。ですからなおさら、いかなる場合にもしっかりと対応できる基礎的な力を、小学校では確実に身に付けてほしいと考えています。これからも、学習の基礎・基本の定着、生活のルールを守る力、豊かで温かい心の育成に力を注いでいきたいと思っています。